

高 下関北高校だより

(令和5年3月20日発行)

山口県立下関北高等学校

〒759-5511 下関市豊北町滝部 1003 番地
TEL(083)782-0023 FAX(083)782-0183

高校生活の様子は下関北高校HPでも紹介しています。

<http://www.shimonosekikita-h.ysn21.jp>

■ 滝部地区 独居老人訪問ボランティア

滝部地区の社会福祉協議会が、毎年豊北地区の独居老人の方々へ、年末に果物やお菓子などを届ける取組を行っています。12月18日(日)に実施されたこの事業に下関北高校もクリスマスに向けて、「明るく元気な気持ちを！」の思いで、松ぼっくりミニツリーを製作し、117人の独居老人の方々へ届けることにしました。たくさんの松ぼっくりミニツリーを製作するために、2年生の「生活と福祉」、3年生の「子どもの発達と保育」、2・3年生の「地域探究」の授業とJRC部の部員の52名で11月から12月中旬まで一か月半の期間で製作にあたりました。阿川ほうせんぐり海浜公園で拾った松ぼっくりを煮沸消毒、乾燥させて、ラッカーで色付けをしました。次にペットボトルキャップに紙粘土を詰めて土台とし、ビーズやテープ、毛糸で飾りました。ツリーに見立てた松ぼっくりは、ビーズ、リボン、ポンポンなど小物を工夫して作りました。そして台紙に置き、プレゼント用の袋に入れ、クリスマスシールを貼って完成させました。当日は製作に関わった生徒と生徒会等の代表8名が、太陽館での袋詰め作業と近くの独居老人のお宅を訪問し松ぼっくりミニツリーを届けました。「可愛い美しいツリーをありがとう」等とお礼の言葉をいただきました。ひとつひとつ心を込めて製作したツリーを喜んでいただけて、こちらも嬉しくなりました。いつも見守っていただける地域の方々へ、これからも下関北高校としていろいろなボランティア活動に参加しようと思います。



■ 豊北小学校代表児童、豊北中学校及び下関北高校生徒会による熟議

1月5日(木)に豊北中学校を会場として、豊北小学校代表児童、豊北中学校及び下関北高校生徒会による熟議を行いました。熟議とは「熟慮」と「討議」を重ねながら共通認識・課題解決をしていくことです。

熟議のテーマは『地域の人口増加のためにできること』でした。

目的は、学校の中核を担って活動している小学校の代表児童、中学校及び高校の生徒会執行部が集い、地域を活性化するための方策についてグループ討論を通して考えることにより、リーダーとしての資質や能力を高めるとともに、地域や学校の良さを再認識し、各学校の児童活動、生徒会活動の活性化に積極的に取り組もうとする意欲と態度を育成することです。

最初に「地域の人口減少について(理由・課題)」を話し合い、次にテーマである「地域の人口増加のためにできること」を考えるという流れで話し合いが進んでいきました。北高生がファシリテーターとなり小学生、中学生の意見をうまく引き出していました。また小中高の各学校の学校運営協議会の委員の方々にも多数参加していただき、児童・生徒たちに的確なアドバイスをいただき、課題解決に向けて深い話し合いとなりました。

「発掘 発輝 発信 ～豊北町の魅力を伝えよう～」 「豊北☆Good atmosphere!」 「Z世代☆のパラダイス!」 「廃校をリメイクして若者達を惹きつけよう!」 「めっちゃええとこ HOHOKUの自慢し隊ぶちええとこ HOHOKUの自慢し隊!!」 「SNSで豊北町の魅力を発信」 など児童・生徒ならではの柔軟な発想で、いろいろなプロジェクトが発表されました。今回で2回目の熟議となりますが、小中高の連携が深まり、地域貢献のプロジェクトが着実に実現できるようになればと考えています。



■ 2年生修学旅行

1月11日(水)から14日(土)の3泊4日で、2年生が修学旅行に行ってきました。今年は3年ぶりに新潟・東京方面のスキーと観光の旅行を予定通り実施しました。新型コロナウイルス感染症の第8波が猛威を振るう中でしたが、旅行中もマスクの着用はもちろんのこと、バスの座席の間隔を空け、消毒を行うなど、新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底しました。

初日、山口宇部空港から羽田空港へ向かい、羽田からバスに乗って新潟の苗場スキー場へ行きました。夕方に到着し、スキーウェアに着替えてスキーをしました。慣れない雪やスキーウェアに苦戦しましたが、インストラクターの先生の丁寧な指導により、少しの時間スキーを体験することができました。2日目は1日中スキーを体験しました。1日目と違い、雪にも慣れ、スキーを楽しむことができました。

3日目は新潟を出発し、ディズニーリゾートへ向かいました。事前に希望を取り、ランドとシーに分かれ、それぞれ楽しみました。アトラクションに乗り、買い物をしたりして楽しく過ごしました。

4日目は浦安のホテルから各自で出発して東京での班別研修に向かいました。

各班が決めた目的地で写真を撮るといった課題をクリアしながら東京観光を楽しむことができました。無事、時間通りに全員が羽田空港に到着し帰ることができました。

終了後の感想では肯定的な評価が多く、コロナ禍の中、何とか実施ができて本当によかったと思っています。また、終了後のPCR検査でも全員陰性であったので、胸を撫でおろしています。生徒にとっては高校時代最大の思い出となる修学旅行を実施できたことは、運がよかったことでもあります。保護者の皆様や旅行業者等関係者のご協力のおかげであると感謝しております。



■ 受験体験報告会

2月14日(火)の2、3限、今年度受験を突破し合格の栄冠をつかんだ3年生の代表35人が、1・2年生に対して、受験に向けての取組や受験の体験を報告する「受験体験報告会」を実施しました。

大学や短期大学、看護学校、専門学校に進学した生徒や公務員・民間企業に就職を決めた生徒35人が、27のブースに分かれて実施しました。昨年度の18ブースから27ブースと講座数を増やして、生徒のニーズに合わせたきめ細やかな対応をとり分科会が行われました。受験先の決定時期、志望理由、受験科目、受験勉強にどのように取り組んだか、受験勉強で印象に残っていること、苦労したことや役に立ったこと、将来への抱負など、後輩へのメッセージを述べました。また、本校では3年生に対する個別指導を徹底していますが、受験まで担当教員にきめ細かに指導してもらった経験も強く印象に残っているようで、事細かに語られていました。今年度は国公立の推薦入試では100%の合格率となるなど、3年生のこれまでの努力が実を結びました。



1・2年生の感想には「早い段階で受験勉強をしないといけないことが分かったので、進路を早く決めて対策をしようと思いました。」「どの教科も基礎力を早く身につけることが大切だと思った。」「共通テストを受験する場合はとにかく多くの過去問に取り組む。長文読解や表・グラフの読み取りが重要になってくるので頑張りたい。」「ニュースを日頃から見て、自分の中で解決策を考える練習をしたい。」「今とても興味をもっている職業だったので、知らないことが知れてとてもためになった。」など具体的な目標が多くありました。身近な先輩たちの体験談は、1・2年生にとって参考になることが多かったようです。特に2年生は、間近かに迫った自分の姿を想像して、進路の決定、実現に向けた受験勉強を本格的にスタートして欲しいと思います。

■ 卒業証書授与式

3月1日(水)10時00分から、山口県立下関北高等学校第三回卒業証書授与式が挙行されました。

新型コロナウイルス感染症の予防対策のため、来賓も在校生も限られた方のみに出席していただき、卒業証書も卒業生一人ひとりではなく代表の村岡美侑さんに授与される形で、三密を避け時間も短縮して執り行われました。

校長の式辞では、「どんな環境下でも真面目に一生懸命生き、皆を幸せにしてあげたいと強く思うことで下関北高校を卒業する皆さんが新しい時代を切り拓き、活躍されることを期待していますし、皆さんの限りない前途に幸多からんことを心からお祈りいたします。」とはなむけの言葉が述べられました。

また、在校生代表送辞では、2年生の小泉颯輝くんが、「先輩方のこととわりわけよく思い出すのは、文化祭や体育祭、クラスマッチ等の行事の姿です。先輩方は何事にも全力で楽しもうとしていて、見ている私たちも楽しくなるような魅力をもっておられました。例えば文化祭では自分は写真を撮りに先輩方の教室に行くことがあって、最初はおそろおそろだったのですが、皆さんが快く写真を撮らせてくださいました。また体育祭では夏休みに大勢集まって練習する姿を何度も目にしました。このように先輩方がいたからこそ行事を大いに盛り上げられたのだと思います。」と、感謝の気持ちを語ってくれました。

卒業生代表答辞では、山田愛弓さんが

「三年前、私たちは下関北高校三期生として入学しました。大きな期待をしていた高校生活は、約一ヶ月の休校からのスタートでした。思い描いていたスタートと違うために、新しい環境への不安が大きくなっていったのを覚えています。しかし学校が始まってからというもの、早く学校に馴染めるように、不安が少しでもなくなるようにと、声掛けやサポートをしてくださった先生方や、共に学ぶ多くの仲間との出会いのおかげで笑顔いっぱいの充実した日々を送ることができました。」

「高校生活最後の年。一ヶ月以上前から準備し、学年で協力し合って作り上げた文化祭。クラスで一丸となって熱戦を繰り広げたクラスマッチ。吹奏楽部の演奏に合わせて、二年間分の思いを込めた最初で最後の野球応援。夏休みから練習し、多くのことを学んだ体育祭。友達と語り合いながらゴールを目指したウォークフェスタ。最後となる行事に全力を注ぎました。また、今まで一緒に過ごしてきた仲間と、就職や進学といった、それぞれの道に向けて切磋琢磨しました。高校受験とは比べものにならないほど厳しい道のりで、何度も何度も逃げ出したいくなりました。しかしサポートをしてくださる先生方や家族、共に戦い最後まで応援してくれる仲間のおかげで乗り越えることができました。今後も夢を叶えるための努力をし続けたいと思います。」

「これまで支えてくださった保護者の方々。なかなか素直になれず、苦労をかけてきました。しかし、誰よりも長い時間、私たちに寄り添いたくさんの言葉をかけてくれたこと、本当に嬉しかったです。いつか親元を離れるまで、もうしばらく、お世話になります。」と語りました。

そして、「これから私たちは、それぞれの道を期待や不安を抱いて歩きます。様々な困難にぶつかり悩んでしまうこともあるでしょう。それでも、この下関北高校での学びを胸にこれから待ち受ける困難を乗り越えていきたいと思えます。」と新たな旅立ちへの決意を述べ、最後に「下関北高校がこれからも素晴らしい歴史を刻んでいかれますことをお祈りし答辞いたします。」と締めくくりました。

下関北高校第三期生に輝かしい未来が待っていることを心から願っています。

